

## 非常勤教員

氏名	井上 みのり				
学位	修士（文学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育原理	(学術論文等) 1. 『移動の時代』を巡る地域社会教育の展望と課題—長野県伊那郡泰阜村の共同調査	共著	2023年3月		日本社会教育学会の若手研究者を対象とする助成を受け、長野県泰阜村における調査内容について論文を執筆した。「中国帰国子女および特別学級講師が綴る葛藤—1970年代における旧泰阜南中学校の特別学級参加者の文章から—」では、生涯学習および地域の多文化共生の観点から、中国帰国子女と講師が直面した特別学級や就労における葛藤について論じた。
	2. 「日本の学校教育における外国人児童の学習および支援の課題—教育原理と多文化共生の視座から—」	単著	2024年3月		教育原理および多文化共生の観点から、学校教育において外国人児童が取りこぼされ縁辺化されてきた現状を、日本の教育原理を概観して論じた。

氏名	吉野 巖				
学位	博士（行動科学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育心理学	(学術論文等) 1. 音響・音楽心理学（執筆担当：第6章 音楽の認知）	共著	2021年3月	北大路書房	テレビ番組の効果音に気分を誘導されたり、印象深いメロディをつい口ずさんだりなど、人の心や行動は音により日々影響されている。なぜ、どのようにして起こるのか。音響・音楽心理学は、認知や知覚のメカニズムとプロセスを調べ、音楽が心理や身体に及ぼす科学的な効果を解き明かし、その社会的実践や魅力をあまねく紹介した。
	2. 調認知過程のモデル：記号処理モデルとコネクショニストモデル、構造・機能モデルと出現頻度モデルなどの比較	単著	2021年3月	音楽知覚認知研究	メロディ認知における調認知過程のモデルについて概観・解説した。まず、調性それ自体や調認知モデルを構築することの意味について確認した後、記号処理モデルかコネクショニストモデルか、構造・機能モデルか出現頻度モデルか、時系列情報を利用するかどうかなど、調認知モデルのいくつかの分類について述べた。次に、代表的な調認知モデルとして、いくつかの記号処理モデル、出現頻度モデル、コネクショニストモデルの基本的な仕組みとシミュレーションについて概観した。各モデルに関して、処理の漸進性、和声的処理の位置づけ、西洋音楽以外の音楽への応用可能性、記号の処理あるいはコネクショニストの処理としての長所や特徴、について比較検討することにより、調認知モデルのあるべき姿について議論

氏名	橋本 尚典				
学位	学士（社会福祉学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
生徒・進路指導論	(学術論文等) 1. コロナ禍における学校と総合的な学習の時間・特別活動の在り方	共著	2022年4月	札幌学院大学教職課程委員会『SGU教師教育研究第36号』	コロナ禍の学校状況、とりわけ特別活動の縮小や活動の廃止、変更と、総合的な学習の時間のあり方について、とりわけキャリア教育としてどの中学校も職場体験をしてきたことに対して、職場体験にこだわらないキャリア教育の必要性について論じた。
	2. 主権者教育からみえた若者の本音	共著	2023年1月	全国生活指導研究協議会北海道支部『北海道の生活指導27号』	大学の授業で「主権者教育」を取り上げた。その際、国政選挙への投票と若者たちの投票率の低さについて議論した時に知った若者の選挙や政治社会に対しての意識や思いについて論じた。

氏名	松田 剛史				
学位	修士（教育学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育課程論	(学術論文等) 1. ESDを意識した教職課程科目「特別活動」フィールドワークの実践	単著	2019年3月		学校教育における特別活動に関する科目での学びについて扱い、本科目で学ぶ学生が特別活動で身に付けたい資質・能力や態度を理解したうえで、指導計画や学習指導案を作成するための演習とした実施したフィールドワークの記録を中心に述べた。また、持続可能な開発のための教育（ESD）の視点を意識し、本領域の実践に際して整理軸となり得るかについても検討した。
	(著書) 1. ESDでひらく未来シリーズ 持続可能な未来のための教育制度論	共著	2018年3月	学文社	本書の独自性は「21世紀の〈教育制度〉は現在のままでは持続しない」という強い危機感に裏打ちされ、解決が必要な数々の教育課題の解決に向けて教員自らが「自分ごと」として構想することを主眼を据えていることにある。 執筆箇所：第3章 中学校社会科ではぐむ持続可能な社会を創造する力

氏名	川元 藍				
学位	修士(教育学)				
担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
道徳教育の理論と実践	(教育方法の実践例) 1. 「道徳の指導法」の指導		2021年12月～現在		道徳の授業実践に関する講義、実践指導等を担当している。中学校の実践例を紹介しながら、修士論文の内容をもとに「考え、議論する道徳」の在り方を学生とともに演習し、指導案作成等についての指導をおこなっている。特に、多面的・多角的に考えさせる授業展開を意識するよう指導している。また、模擬授業等を通し授業実践を意図した学び合う講義を実施している。
	2. 札幌市研究開発事業「道徳教育に係る実践研究」		2018年3月	札幌市教育委員会	札幌市研究開発事業研究課題「道徳教育」において、中学校の道徳科における指導と評価についての実践研究の報告をまとめた。具体的には、各学年で実施する道徳の授業の振り返りを統一した様式で生徒に記録させる実践を報告した。この実践は、2019年度からの「道徳」の教科化において、生徒一人ひとりの状況を把握できることから学習評価の資料として有効であると考えられる。また、漫画教材「イヴの時間」による授業実践を紹介し、「考え、議論する道徳」の在り方の考え方を示した。

氏名	望月 由美子				
学位	博士(文学)				
担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
教育制度論	(学術論文等) 1. 「外国人児童生徒の教育保障に関する法整備と行政介入の日伊比較」	単著	2023年	『子ども発達臨床研究』第17号	イタリアのトレント自治県における外国人児童生徒の就学及び教育保障に関する政策、条件整備を取り上げ、行政側からの積極的かつ、範囲限定的な介入措置の重要性について検証した。
	2. 「イタリアにおける外国人子弟の教育政策とインターカルチュラル教育—2006年と2014年の「外国人生徒の受入れと統合に関するガイドライン」の分析を通じて—」	単著	2021年	『公教育システム研究』（北海道大学大学院 教育学研究員 教育行政学研究室／学校経営論研究室）	急増する移民第二世代の子どもたちの就学状況に関する統計データを検証し、イタリア教育省が目指すインターカルチュラル（文化間）教育を通じた彼らの社会統合と多文化共生社会のあり方を考察した論文。
	(著書) 1. 「外国人児童をどう受け入れる」	単著	2022年	北海道新聞「悩みごとナビ」（2022年8月3日）	日本における外国ルーツの児童生徒が抱える言葉の障壁を乗り越える教育方法としてのインターカルチュラル教育の提案を行った記事。

氏名	新川 貴紀				
学位	博士 (心理学)				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育相談の基礎と方法	(学術論文等) 1. 対話から考える教育— 心理臨床家の成長のために—	単著	2019年3月	北翔大学大学院人間福祉学研究科臨床心理センター紀要第11・12合併号	精神医学や臨床心理学において近年注目される対話（ダイアログ）について臨床的な効果だけではなく、これから専門家として相談を受ける側になる学生の成長にも対話の場が意味のあるものであることを論じた。
	(著書) 1. たのしく学べる乳幼児のこころと発達	共著	2020年3月	福村出版	乳幼児期の人間関係やコミュニケーション、認知や思考、向社会性や道徳性、発達のつまずきなど全14章から乳幼児の心と発達を学ぶ。